

令和2年度

知床半島先端部地区羅臼側海岸域における利用適正化推進業務

報告書



令和3年(2021年)3月
公益財団法人 知床財団

報告書概要

1) 業務名

令和2年度知床半島先端部地区羅臼側海岸域における利用適正化推進業務

2) 業務の目的

知床国立公園知床半島先端部（以下、「先端部地区」という。）は、原生的な自然環境と多種多様な野生動物によって形成される豊かな生態系が残されている地域であり、その海岸線においては一般の観光客による積極的な利用は想定されていない。一方で先端部地区羅臼側の海岸域においては、知床ならではの質の高い自然体験の機会を求めて、ヒグマ等の野生動物ウォッチングを目的とした複数業者の動力船による利用が近年増加傾向にある。

以上を踏まえて、本業務は、既存の地域ルールの中では十分に想定されていなかった先端部地区羅臼側海岸域における野生動物ウォッチングを目的とした利用に関する当面のルール案作成を行うとともに、事業者等に対して野生動物ウォッチングに係る知識の理解促進のためのセミナーを開催し、先端部地区羅臼側海岸域の利用適正化を推進することを目的とする。

3) 業務実施体制

本業務は、環境省からの請負業務として公益財団法人知床財団が実施した。

4) 実施概要

(1) 野生動物ウォッチングのルール案作成

先端部地区の羅臼側海岸域における野生動物ウォッチングクルーズについて、有識者2名（北海道大学 下鶴倫人氏、知床ウトロ海域環境保全協議会 福田佳弘氏）にヒアリングを行い、ルール案を作成した。作成にあたっては野生動物への影響の軽減、自然環境保全への貢献、万が一に備えた安全管理等に留意し、「知床国立公園知床半島先端部地区利用の心得（以下、「利用の心得」という）」等の地域ルールを参照するとともに、環境省担当官と十分な協議を行った。

(2) セミナーの開催

野生動物ウォッチングに係る知識の理解促進のため、有識者2名（株式会社ピッ

キオ 楠部真也氏、北海道大学 下鶴倫人氏) を招聘し、ヒグマウォッチングクルーズ運航事業者と地元関係団体等を対象としたセミナーを1回、令和3(2021)年1月30日知床羅臼ビジターセンターにて開催した。セミナーは「ビジネスとしての野生動物観察について」、「知床のヒグマの基本知識と情報収集の効果について」の内容で実施された。参加者はヒグマウォッチングクルーズ事業者5名(事業開始予定者含む)、地域関係団体2名、関係行政機関5名、Web会議システムでの傍聴8名の合計20名であった。

目次

はじめに	1
(1) 野生動物ウォッチングのルール案作成支援	3
① ルール案の作成	3
② 有識者等へのヒアリング	3
(2) セミナーの開催	8

添付資料

1. 野生動物ウォッチングルール（案）
2. ヒグマ出没記録の共有方法
3. 野生動物ウォッチングのルール案作成に係るヒアリング記録
4. 野生動物ウォッチング講座議事および使用スライド
5. 参照した地域ルール
 - ・株式会社知床らうすリンクル ヒグマウォッチングに際しての自主ルール
 - ・知床国立公園知床半島先端部地区利用の心得（一部抜粋）
 - ・知床羅臼観光船協議会 附則 野生鳥獣ウォッチング自主ルール
 - ・羅臼遊漁釣り部会自主ルール

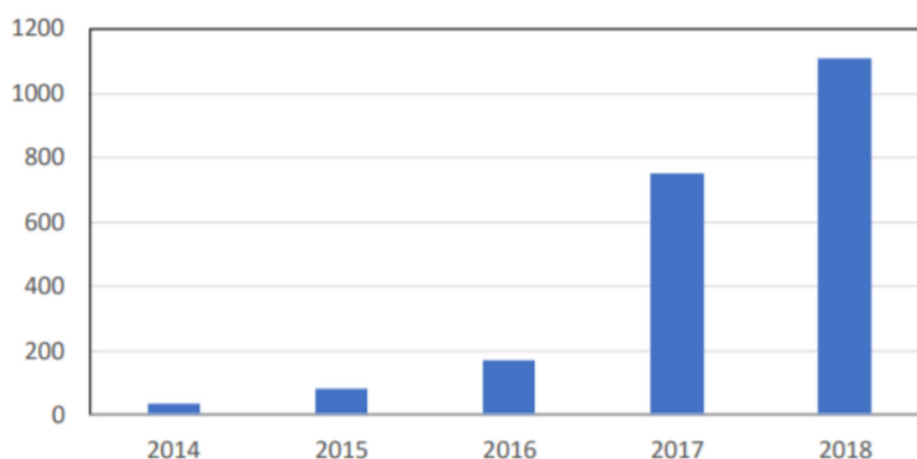
はじめに

知床半島先端部地区は極めて原始性の高い自然環境と多種多様な野生動物によって形成される豊かな生態系が残されている地域であり、羅臼側の海岸域においては知床ならではの質の高い自然体験の機会を求めて、ホエールウォッチングや釣りを目的とした動力船による観光利用が盛んである。これらの動力船事業者においては野生鳥獣保護や海難事故防止という観点から、独自に協議会および部会を設立し自主ルールを制定し運用している。

ヒグマ等の野生動物ウォッチングが目的の小型船クルーズ（以下、「野生動物ウォッチングクルーズ」とする）は、先端部地区羅臼側沿岸域で実施されている新しい観光利用である。当該事業を代表する株式会社知床らうすリンクルにおいては、2014年は利用者数34名、催行日数6日であったが、2018年は利用者数1,111名、催行日数176日と5年間で利用者数・催行日数ともに約30倍に増加した（表1参照）。これに伴い、同事業に新規参入した運航事業者数も増加している。

表1. 知床岬ヒグマボートクルーズ利用者数の推移（2014-2018. 人）

	利用者数	催行日数	運行期間	前年比
2014	34	6	5月～8月	-
2015	79	27	5月～8月	232%
2016	168	32	5月～9月	213%
2017	752	107	5月～10月	448%
2018	1111	176	5月～10月	148%



令和元年度知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議 資料3-2より抜粋

しかしながら、事業者数や利用者数など当該事業の動向はこれまで把握されておらず、運航ルールは各社に任されていた。その結果、野生動物への接近距離や岩礁地帯の運航に対する意識等が各社で異なることが顕著となり、万が一事故が起きた際の影響やヒグマの人馴れ、不慣れな町外事業者の新規参入等に対する懸念の声が上がっていた。そこで2020年度より羅臼町役場が中心となり、運航事業者や行政機関、地域関係団体を招集し、適正な利用と環境保全を図るため「知床羅臼ヒグマウォッチングクルーズ船協議会設立に係る意見交換会（以下、「意見交換会」という。）」を実施している。

本業務では、専門家からの助言を得ながら、野生動物ウォッチングクルーズにおける野生動物への影響の軽減や自然環境の保全を図るためのルール案を作成した。また野生動物ウォッチングに係る知識の理解促進のため、野生動物ウォッチングクルーズ運航事業者や関係行政機関を対象としたセミナーを開催した。

(1) 野生動物ウォッチングのルール案作成支援

① ルール案の作成

ルール案の内容については以下の事項を基本とした。

- ・野生動物との適切な距離、接近方向、接近速度、観察時間を守ること
- ・騒音を発しないこと
- ・既存のルール（利用の心得、遊漁釣り部会自主ルール等）を守ること
- ・ヒグマ出没状況について情報共有を行うこと
- ・先端部地区を利用しているトレッカーについて情報共有を行うこと

上記に加えて野生動物ウォッチングクルーズ運航事業者の自主ルールや「利用の心得」等の地域ルールを参照の上、環境省担当官と協議して素案を作成した。

まず、自然環境の保全および海難事故の防止を図り知床ならではの野生動物ウォッチングを将来にわたって提供することを目的とした。次に自然環境保全への貢献として、野生動物への影響の軽減についての考慮として、事業者間での最大の接近距離と観察時間を示した。そして野生動物の自然な行動を妨げないよう、接近方法や生息行動に配慮して運航することを明記した。加えて、運航中に得たヒグマの出没状況については、知床にて調査・研究・保全管理を行う各機関と情報共有を行うこととした。

ヒグマ出没状況に関する情報共有の方法については、過去に提供された情報の用途や整理状況を確認の上、作業に係る負担を軽減することで継続性を確保するため、携帯電話を用いて目撃アンケートを回答・送信する手法を提案した（巻末に添付）。受信した情報は自動的に集計され、事業者や関係機関でいつでも確認することができ、とりまとめたデータは各社で活用可能とした。海難事故の防止については、ライフジャケットの装着を徹底することや、海岸トレッカーなどの事故発生時には協力することを記載した。

素案はヒアリング及び第2・3回意見交換会で有識者や運航事業者等の意見を募ってブラッシュアップを行い、案を作成した。案は第4回意見交換会においてヒグマウォッチングクルーズ運航事業者、行政機関および地域関係団体によって合意された。野生動物ウォッチングルール（案）は巻末に添付した。

② 有識者等へのヒアリング

ルール案の具体的な内容を検討するにあたって、有識者2名（北海道大学大学院 獣医学研究院 准教授 下鶴倫人氏、知床ウトロ海域環境保全協議会 福田佳弘氏）へのヒアリングを行い、素案について専門的な見地からの意見を収集した。上記の有識者の選定は、ヒグマ等の野生動物に関する専門家や、先端部地区およびその利用に関する有識者の中から環境省担当官が指名したものである。ヒアリングの日程は有識者と相談した結果、セミナー開催前に実施した。ヒアリング後は記録を作成し、そこで得た意見等は環境省担当官との協議を経て案に反映させた。

有識者ごとのヒアリング内容の概要を以下の通りまとめた。ヒアリング内容の詳細は巻末に添付した。

北海道大学大学院 獣医学研究院 准教授 下鶴倫人氏

日時：2021年1月13日（水）14:15～15:15

場所：知床羅臼ビジターセンター レクチャールーム（Web会議システムにて実施）

出席者：高橋自然保護官、高林自然保護官補佐（環境省）、石崎課長（羅臼町）、坂部、江口（知床財団）

【ルール案について】

➤ ヒグマへの接近について

- ヒグマとの適正な距離について、人馴れを防ぐという観点で科学的な裏付けはない。しかし、観光の質との兼ね合いを考慮すると、海上で70mという距離は短すぎることはない。このままでよいのではないか。
- 海上と陸上では状況が異なるため、それぞれ違ったルールの運用でよいと考える。

➤ ヒグマの観察時間について

- 適正な観察時間について、ヒグマの個体差等もあるため科学的な根拠はもてない。人馴れを助長しないためには観察時間を短くすればよいが、観光の質との兼ね合いを考慮しながら、一定の観察時間を定めることが望ましいと考える。
- ヒグマ自身が嫌だと感じたら、基本的にヒグマの方から観光船と距離を取るだろう。速足で逃げるような明らかに嫌がるヒグマは深追いしないこと。
- 観光という観点からは、1隻ごとの観察時間を定め、ヒグマの反応を見ながら船同士の距離感を保てば事業者間の運用としてうまくいくのではないか。

【その他のコメント】

➤ ヒグマの人馴れについて

- ヒグマウォッチングクルーズ船の関与に関わらず、ヒグマの人馴れについては止めがたくこれから確実に進むであろう。
- ヒグマウォッチングクルーズ事業の発展に伴い、ヒグマの人馴れ問題が表面化する機会も増え、クルーズ船の影響であると誤解されるケースも増えることを懸念している。
- ゆえに、ヒグマの人馴れを最小限に抑えるためのルールを作成し、その目的が公園利用者に浸透することはクルーズ事業者にとって利があるものだと考える。

➤ ルール策定後の運用について

- ルールの内容を見直す場を定期的に設け、必要に応じて新たな対策を講じる等、事業者間が共通意識をもって運用していく姿勢が必要ではないか。
- ヒグマ出没記録の収集と蓄積が可能であれば、これまでの出没傾向や動向を科学的な根拠として示すことができ、貴重なデータを関係機関に提供することで環境保全にも貢献できると考えられる。仮に、先端部地区のヒグマの人馴れの原因がクルーズ事業にあると批評された場合でも、事業者自身を守ることに繋がるだろう。
- 事業者自らがルールを順守することに加えて、知床の環境保全に積極的に協力しているという姿勢をアピールすることで、対外的な信頼へと繋がる。
- ヒグマ出没記録は集客の材料のひとつにもなる。



写真1. Web会議システムを利用して下鶴氏にヒアリングする様子

知床ウトロ海域環境保全協議会 福田佳弘氏

日時：2021年1月26日（火）10:00～11:00

場所：中標津町内

出席者（一部 Web 会議システムにて参加）：

高橋自然保護官、高林自然保護官補佐（環境省）、石崎課長（羅臼町）、坂部（知床財団）

【ルール案について】

- 羅臼の海では、コンブ漁やウニ漁などの漁船が日頃から海鳥営巣地の近くを通過しており、ヒグマウォッチングのクルーズ船の航路では大きな影響はないと考える。
- 羅臼では、航路を営巣地から 100m 離すことが不可能な地形が多いので、数字で示すのではなく、「営巣地にむやみに近づかない、上陸しない」等の書きぶりが適切ではないか。

【運航にあたり配慮すべき点について】

- 海鳥の大きな営巣地は、オオセグロカモメはメガネ岩周辺に、ウミウでは観音岩とメガネ岩周辺にある。
- 特に配慮すべき時期は、繁殖期である 5 月から 8 月中旬くらいまでで、営巣をしている岩礁に上陸して写真を撮るなどの行為は、絶対に行ってはいけない。
- 親鳥が巣から立ち上がってしまうなどの警戒行動を起こした場合には、それ以上近づかないし、滞在もしない。親鳥が攻撃してくるなどの威嚇行動がある場合も同じ。海面にいる鳥に近づくときも、飛び立つ、あるいは潜るまで近づかない。その他に、少しでも鳥たちが嫌だなという素振りを見せたら、それ以上は近づかないようにする。

※ヒグマの捕食による海鳥の営巣への影響が大きいと考えられるので、このような場面を目撃した場合には記録を取って当方（福田氏）まで伝えていただけるとありがたい。

【羅臼海域で見られる海鳥に関する見どころについて】

- オオセグロカモメやウミネコなど羅臼ではこれまでよく見られていたカモメ類であっても、北海道指定の準絶滅危惧種に指定されるなど、非常に数が減っているということを皆さんに認識してほしい。
- 今後、カメラマンが注目する可能性はあると考える。沖合にはアホウドリの仲間やミズナギドリ、ギドリの仲間が見られ、沿岸からは営巣地などをより近くで見ることができる、海鳥ウォッチングとしては楽しい場所である。アホウドリ 3 種が一つの海域で見られるところは、羅臼海域のいいところである。

【その他のコメント】

- 海鳥が嫌がる行為をしなければ船を嫌がることなくウォッチングを続けられることになる。今後、海鳥もウォッチングの対象になることがあれば、カメラマンの集客につながり、結果として地域にとってもプラスであろう。
- クルーズ船よりもシーカヤックのほうがカモメのコロニーに上陸する可能性が高く、シーカヤックのルールやマナーについても徹底したほうがよい。クルーズ船の方々には、海鳥に影響がある行為などを目撃したら、随時報告してもらうような協力関係ができるとよい。

(2) セミナーの開催

野生動物ウォッチングに係る知識の理解促進のため、ヒグマ等の野生動物の専門家や先端部地区およびその利用に関する有識者2名（株式会社ピッキオ代表 楠部真也氏、北海道大学大学院獣医学研究院 准教授 下鶴倫人氏）を招聘し、事業者や地元関係団体等を対象としたセミナーを開催した。

セミナーは「野生動物ウォッチング講座」と称し、2021年1月30日に知床羅臼ビジターセンター内のレクチャールームを会場に、Web会議システムを併用して開催した。下鶴氏は会場で登壇、楠部氏はWeb会議システムにて登壇し、出席者は来場参加とWeb会議システム参加を含め20名であった。

セミナーの開催にあたって、有識者との連絡調整、開催日時および場所の調整、開催案内の発送、資料作成補助、印刷等を行った。セミナー当日はWeb会議システムおよび録音のための音響機器の設定を含む会場設営と運営を行い、セミナー後は議事概要を作成した。

セミナーの内容について、以下に記す。議事概要および使用スライドは巻末に添付した。

◆ 野生動物ウォッチング講座

開催日時：2021年1月30日(土) 16:00～17:40

開催場所：知床羅臼ビジターセンター レクチャールーム



写真2. 野生動物ウォッチング講座の様子

講座内容

- ①野生動物ウォッチングの効果と注意点（講師：株式会社ピッキオ代表 楠部真也氏）
 - ②世界に誇る知床のヒグマ（講師：北海道大学大学院 獣医学研究院 准教授 下鶴倫人氏）
- （各テーマは講座30分、質疑応答15分の時間配分で実施した。）

出席者名簿

機関名	職名	氏名
【ヒグマウォッチングクルーズ事業者】5名		野田 克也 小倉 新治 濱田 久吉 天神 英二 遠藤 辰男
【地域関係団体】2名 知床羅臼町観光協会 (公財) 知床財団 羅臼地区事業部	事務局長 部長	若林 育代 中西 将尚
【関係行政機関】5名 羅臼町役場 産業創生課 羅臼町役場 産業創生課 環境省羅臼自然保護官事務所 環境省羅臼自然保護官事務所 環境省羅臼自然保護官事務所	課長 係長 自然保護官 自然保護官補佐 自然保護官補佐	石崎 佳典 藤本 茂典 高橋 すみれ 高林 紗弥香 宮奈 光一郎
【Web 会議システム参加者】8名 環境省ウトロ自然保護官事務所 環境省ウトロ自然保護官事務所 環境省釧路自然環境事務所 環境省釧路自然環境事務所 羅臼町役場 産業創生課 羅臼町役場 産業創生課 知床羅臼町観光協会 (公財) 知床財団 保護管理部	国立公園保護管理企画官 国立公園管理官 係員 生態系保全等専門員 主任 主事 部長	渡邊 雄児 山田 秋奈 森田 由女花 川村 胡桃 田澤 道広 吉田 遼人 土井 明子 石名坂 豪

運営事務局	職名	氏名
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	係長 主任	坂部 皆子 江口 順子 茂木 三千郎

※行政関係者の所属については、一部略称を使用した。

講座概要

①「野生動物ウォッチングの効果と注意点」

- 講師：楠部真也氏（株式会社ピッキオ 代表）※Web 会議システムにて登壇
- 概要：野生動物観察をビジネスモデルにした先駆者として、羅臼の野生動物ウォッチンググループが持続可能な観光コンテンツとなるために、事業者側が留意すべき事項やそれに対するツアー参加者側の反応、観光スタイルの違いによる効果的な集客方法、意識すべき経営方法等について紹介した。



写真3. Web 会議システムにて登壇する楠部氏

■ 講座の要旨：

- ・株式会社ピッキオは軽井沢を拠点にエコツアー・環境教育事業を展開、ツキノワグマの保護管理にも携わっている会社である。2019年からは知床ウトロにも事務所を設け、自然体験ツアーを実施している。
- ・知床国立公園を有する北海道東部はダイナミックで貴重な野生動物が生息し、大自然が残されているエリアである。知床国立公園は治安や利便性の面で海外からの評価も高い。
- ・野生動物観察は日本人では都市部の居住者、そして外国人では欧米系の外国人に好まれる傾向がある。
- ・日本人と外国人の観光スタイルや動物観察ツアーの参加目的と傾向は異なる。野生動物やその保護に関する知識を習得し解説することが重要である。
- ・他の地域で運用されている野生動物観察の自主ルールについて。
- ・将来にわたって野生動物観光を持続可能なビジネスにするためには事業者が適正な利益を得て

従業員に還元することが不可欠である。

②「世界に誇る知床のヒグマ」

- 講師：下鶴倫人氏（北海道大学大学院 獣医学研究院 准教授）
- 概要：知床のヒグマの基本知識や推定生息数の解説等からヒグマに対する理解を深め、顧客満足度の高いツアーを提供するための情報収集や環境づくりについて語った。

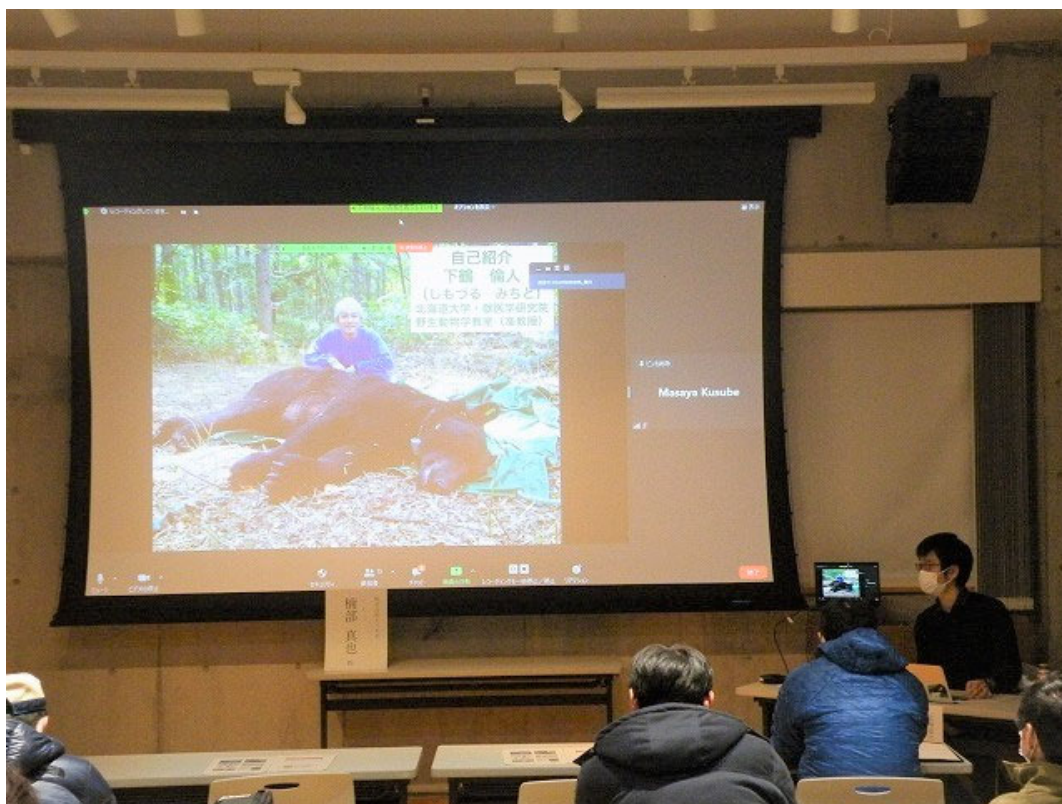


写真4. 会場にて講義する下鶴氏

■ 講座の要旨：

- ・北海道のヒグマの生態や行動学的な特徴、食べ物など1年間の生活について。
- ・北海道におけるヒグマと人との軋轢について。
- ・知床のヒグマの推定生息数調査について。
- ・ヒグマウォッチングクルーズ事業者はヒグマを日々観察することが出来る。ヒグマの基本的な知識の他、日々の観察によって得られた様々な情報をクルーズ乗船者に提供すればより満足度の向上につながるだろう。
- ・知床は世界に誇る自然環境を有し、ヒグマが高密度で生息する地域である。また、同時に人の暮らしや産業が自然の一部になっている。それはクルーズ乗船者にとっても印象的な自然体験になるであろう。
- ・野生動物観光の理想は、行政や地域の事業者が相互に役割を意識し協力し合って、利益や税収のサイクルを健全に回していくことである。

(3) まとめ

既存の野生動物ウォッチングに関する自主ルールや「利用の心得」等の地域ルールをもとに素案を作成し、ヒアリング及び意見交換会を通して案を作成した。案は第4回意見交換会においてヒグマウォッチングクルーズ運航事業者、行政機関および地域関係団体により合意されたが、今後の運用に向けて以下の課題が挙げられる。

- ・運航事業者がルールの運用と順守について共通意識を持ち、定期的に運用状況を見直す機会を設け、必要に応じてルール変更や対策を実施する。
- ・収集したヒグマ出没状況データの効果的な活用。

先端部地区羅臼側海岸域における適正な利用にあたっては、協議会などの組織運営基盤を作り相互協力体制を作り、実効性を持ったルールの運用や持続可能な運営に取り組むことが求められる。

令和 2 年度 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：令和 2 年度 知床半島先端部地区羅臼側海岸域における利用適正化推進業務

事業期間：令和 2（2020）年 11 月 18 日～令和 3（2021）年 3 月 26 日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356

北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531 番地



リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料（A ランク）のみを用いて作製しています。